

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072100284
法人名	株式会社 山田桜木郷
事業所名	グループホーム やまだ桜の郷
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市下山田715番地1 (電話) 0948 - 53 - 1278

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	12月14日

【情報提供票より】(平成19年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,000円		

(4) 利用者の概要(10月23日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嘉麻赤十字病院 / 松岡病院 / 有吉歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームやまだ桜の郷」は、緑豊かな大法白馬山と山田川の間に位置し、周辺は山里の風景が広がる風光明媚な環境を有している。グループホームは「桜の郷」の名前の由来通り、桜が使われ、桜の香りが漂う空間づくりを行っている。敷地が約2,400坪あり、中庭は芝生が敷かれ、入居者のリハビリを兼ねた散歩コースとして活用されている。併設してデイサービスセンターがあり、デイサービスの利用がない場合には、デイサービスの多目的空間は入居者や家族、地域の方々と共に行事を楽しむことができる空間として活用されている。広々とした敷地やグループホームは開放感に溢れており、入居者が季節感を感じながら、ゆったりと落ち着いた暮らしを営むことができるように管理者や職員が日々の努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回調査では、地域との連携が課題となっており、町内会の加入なども検討している状況にある。今後は、運営推進会議の場を活かし、消防訓練なども含め、地域との連携を高めたいと考えている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は主任クラスが中心となり、日頃のケアの振り返り、課題や問題点などを確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、参加メンバーの声かけを行っているが、全員が一同に集まる機会がなく、家族・行政と個別での会合となっており、今後はグループホームの行事など集まっていただけの機会の前後に運営推進会議を設けるなど工夫し、委員の負担とならないように配慮しながら取り組んでいきたいと考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族への連絡は定期的に「やまだ桜の郷だより」を送り、行事など入居者の状況報告を行っている。また、金銭出納帳のコピーなども送っている。面会に来られた際には、その都度、入居者の状況報告を行っている。面会にあまり来れない場合は、電話や手紙などで連絡を取っている。苦情や意見など出ていない状況があり、入居者や家族に苦情や意見を言っていただけの関係づくりが求められる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、地域の草刈りや夏祭りなどに参加している。また、小学校が近く小学生の体験学習先となっており、地域の獅子舞訪問なども受け入れている。今後は消防訓練なども地域の参加協力をお願いするなど、地域との連携を高めたいことが求められ、地域に向けて認知症介護の理解を高める勉強会などを開催するなどの取り組みが求められる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「常に笑顔で入居者が安心して生活出来る環境づくりに心がける」を掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。しかしながら、地域密着型サービスとしての理念の内容が含まれていない為、理念の検討が求められる。		平成18年の法改正により、地域密着型としての役割を担う理念の内容が求められ、地域との連携など理念の文書の検討が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念を意識したケアを行うために、首から下げている名札の裏に理念が記され、いつも理念を念頭におきながら取り組むように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の草刈りや夏祭りなどに参加している。小学校が近く小学生の体験学習先となっており、地域の獅子舞訪問なども受け入れている。今後は消防訓練なども地域の参加協力をお願いするなど、地域との連携を高め、地域に向けて認知症介護の理解を高める勉強会を開催するなどの取り組みが求められる。		運営推進会議など地域の方が参加する機会をとらえ、消防訓練やボランティアなど参加協力をお願いするなど、更に地域との連携を高める取り組みが必要である。また、これまでの認知症ケアのノウハウを活かし、周辺のコミュニティ施設での認知症介護の勉強会を開催するなど、認知症の理解を高める取り組みが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点をふまえ、できる範囲で地域との連携など課題解決に向けて取り組んでいる。自己評価の日頃のケアを振り返る機会としてとらえ主任クラスが中心なり、取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、参加メンバーの声かけを行っているが、全員が一同に集まる機会がなく、家族・行政と個別での会合となっており、今後はグループホームの行事など集まっていただけの機会の前後に運営推進会議を設けるなど工夫し、委員の負担にならないように配慮しながら取り組んでいきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に月1回、行政の担当者・医療関係者・高齢者ケア関係者が集まる学習会「ケア木」に参加し、勉強と情報交換を行っている。また、行政の担当者とは、電話連絡や訪問などで相談ができる関係を構築している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	月1回、ミーティングの際、権利擁護に関して学習テーマとして取り組んでいるが、会議録などに記録として残っておらず、学習テーマと参加者がわかる記録の充実が求められる。		ミーティングの会議録は、日々のケアの検討内容の記録はあるが、学習テーマや参加者の記録がない。それらの記録の充実が必要である。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は定期的に「やまだ絵の郷だより」を送り、行事など入居者の状況報告を行っている。また、金銭出納帳のコピーなども送っている。面会に来られた際には、その都度、入居者の状況報告を行っている。面会にあまり来れない場合は、電話や手紙などで連絡を取っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱による投書もなく、意見や苦情は記録として残っていない状況にある。入居者や家族が苦情や意見など言いやすい関係づくりが求められ、それらを言っていたけりような働きかけも必要である。		日頃より入居者や家族が、苦情や意見を言っていたけりような関係づくりが求められ、運営推進会議などの機会を活かすなど、コミュニケーションを図る努力が求められる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的には2ユニット同士が互いに遊びに行くなど交流があり、行事も一緒に行い、入居者及び職員同士が顔なじみの関係にある。また、職員は2ユニットに顔を出し、職員の異動や離職があった際のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たっては、性別や年齢に関係なく、「高齢者が好きなこと」「仕事への意欲があること」を基準に採用を決めている。現在、職員の研修など時間調整により受講が難しい状況はあるが、職員との個人面談や食事の機会をつくるなど、働きやすい環境づくりに努めている。		職員の社会参加や自己実現を図るために、積極的に研修受講をすすめるなど対応が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権を尊重できるように勉強会やミーティングなどでテーマとして取り上げているが、記録が残っていない為、記録の充実が求められる。また、行政や医療関係者との学習会「ケア木」にも、職員が参加できるようになっており、参加の記録が求められる。		人権研修など、研修の情報入手に努められ、参加した場合は、研修のテーマ・内容・参加者など記録の充実が求められる。また、伝達研修などの充実も求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員育成については、勤務のローテーションにより研修受講が厳しい状況があるが、職員のスキルアップを図るために、研修の情報収集など積極的に取り組まれ、受講できるようにサポートが求められる。		職員の更なる仕事の意欲を高め、スキルアップを図るために研修の充実が必要である。研修受講を積極的にすすめるサポートの検討が必要である。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	定期的に月1回の学習会「ケア木」で、医療関係者や同業者と学習及び情報交換を行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、入居者と家族が1泊体験入居ができ、グループホームの暮らしを理解していただけるように取り組んでいる。また、入居前には、何度か訪問し、なじみの関係をつくることにより、入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの暮らしの中で培ってきた経験を活かし、野菜切り・調理・後片づけ・掃除機かけ・モップかけ・草取り・洗濯物干し～取り込み～たたみまで一連の家事などを職員と一緒に行っていただき、残存能力や生活の知恵を活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握	これまでの入居者の生活歴・生育歴・趣味・仕事などを更に掘り下げ、日々の暮らしの中で、それらを活かした取り組みが求められる。		センター方式を採用しているが、職員の日々の気づきを書きとめ、入居者の思いや意向を総合的に分析し、生活歴や生育歴と照らし合わせ、「何を望まれているのか」を把握していくケアが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画に短期目標の設定が求められ、それにもとづき具体的なケア内容が求められる。1ヶ月ごとに、入居者が何ができているのか、状況がわかる記録が望まれる。		短期目標設定により、1カ月ごとにケア内容の評価が必要である。それにもとづき、ケア内容の検討・調整が求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	短期目標設定により、評価を行い、短期目標の見直しを含めた検討が求められる。		短期目標やケア内容の見直しにより、状態変化に応じた介護計画が作成できる。今後は、介護計画の作成を含めた検討が必要である。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	併設してデイサービスセンターがあり、日曜日などデイサービスの利用がない場合は、多目的空間において、家族や地域の方々と共に行事を楽しんだり、ふれあい交流の場として活用している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医への受診を支援しており、現在、ホームの主治医を検討しているところである。今後は、看護師との連携による医療連携加算など検討できる条件を備えているため、運営面の充実も視野に入れ、検討されることも良いのではないかと考えられる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に伴い、医療との連携により対応できること・できないことを明確にし、入居者や家族に意向にそった支援が行えるように支援している。今後は看取りに関する方針などを明確にした書類の整備が求められる。		重度化や終末期に向け、医療との連携体制などを示す「看取りの方針」が求められ、また、家族の承認を得る「同意書」などの書類の整備も求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	排泄介助マニュアルなど、プライバシーに配慮したケアのあり方が示され、丁寧でおだやかな言葉かけを行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の状態変化に応じて、暮らしのペースに配慮しながらケアを行っているが、個別の対応に重点をおいたケアの充実が求められる。		入居者一人ひとりの個性性に焦点を当て、更に日々のケアの充実を図ることが求められる。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	買い物は職員と入居者が一緒に週2回出かけ、調理は皮むきや切り込みなど行っていただいている。入居者の好みを活かしメニューや味付けに取り組み、食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に週2回の入浴日を決めているが、その以外でも希望があれば入浴できるように支援している。併設のデイサービスセンターに露天風呂や大浴場があり、デイサービスの利用時間以外で楽しんでいただけるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎月、外出や外食など楽しんでいただけるように支援している。日常的には縫い物や書道・塗り絵・将棋など趣味を活かした楽しみごとを支援している。		入居者の重度化に伴い、菜園での野菜づくりなど困難な状況はあるが、これまでの生活歴を活かし、気軽にプランターで野菜作りを楽しむなど更に工夫が求められる。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	自然豊かな環境に立地しているため、季節感を感じる外出が充実している。笹栗公園・藤寺・菖蒲園・勝盛公園・英彦山へ紅葉見学・太宰府天満宮・鳥羽公園・大分八幡(初詣)など多彩な外出を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	基本的に鍵をかけないケアを実践しているが、外出の察知など状況に応じて施錠を行うことがある。		入居者の状態変化により、施錠することもあり、玄関はセンサーや鈴などを取り付けるなど、施錠をしない工夫が必要である。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防災訓練を定期的に行っており、全ての職員が誘導など対応できるが、緊急時には地域の協力が得られることも必要である。		運営推進会議で、災害時の地域の協力を依頼するなど検討が求められ、消防訓練も地域との連携が必要である。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	塩分や糖분을摂りすぎないように摂取量に配慮した支援を行っている。ケア木のネットワークを活かし、ネットワークの中で栄養管理士など専門家に摂取量や栄養バランスをチェックしていただくなどチェック機能が求められる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	居室は庭に面し、窓が大きく明るく、日射しが気持ち良く、日光浴など楽しめる、清潔な空間となっている。リビング空間には、畳みのコーナーもあり、低めのソファが設置され、ゆったりと過ごせる空間となっている。ふんだんに木が使われ、気持ちよく過ごせる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は仏壇やミニ・ソファ、自分の手作りの作品などが飾られ、自分の部屋としての工夫が見られる。庭に面している部屋は日当たりが良く、居室から庭で出られるように工夫されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			